

第5次塩竈市長期総合計画進捗報告会 報告書

1. 日 時：平成25年2月9日（土） 10:00～12:30
2. 場 所：ふれあいエスパ塩竈2階 エスパホール
3. 出席者：長期総合計画審議委員（9名）、市民懇談会委員（11名）、市長、各部長、市議会議員（12名：傍聴のみ）、一般参加3名（傍聴のみ）事務局（政策課）

4. 概 要

- (1) 開会
- (2) 市長挨拶
- (3) 平成24年度主要事業の取り組み状況等について（報告・評価）
各部の主要事業の取り組み状況等を報告し、1件ごとに委員20名から5点満点で採点。
（各事業の採点は別紙のとおり）

平均点数は、3.94

各委員から評価の高い事業としては、

- 「子宮頸がんワクチン等接種事業」 4.65
- 「待機児童ゼロ推進事業」 4.40
- 「一流アスリート誘致先導事業」 4.40

《審議委員、市民懇談会委員の主な意見》

第1編 だれもが安心して暮らせるまち

- 浦戸諸島の水道復旧はどうなっているのか報告してほしい。
→津波の影響を受けないよう、海底の岩盤を通す工法で配水管を復旧している。
- 「社会資本整備総合交付金とは何か」の説明を
→従来は道路や下水道、住宅などそれぞれに国の補助金があったが、それらを統合した補助制度。こちらを活用して事業を実施している。
- 高齢者福祉の充実について 国民年金受給者が介護サービスを受ける上で年金だけでは足りない。このあたりを今後どのように考えているか。
→介護サービス利用に応じた自己負担については、年金受給額に応じた軽減措置などがある。詳しくは個別ご相談いただければ何が出来るかお答えしていきたい。
- 耐震診断ローラー作戦は今年実施されているのか。
→ローラーはまだ実施していない。今年スケジュール的に難しいかもしれない。

- 市営住宅の改修が進んでいるが、根本的なものとして市営住宅の耐震化は終わっているのか。
- 市営住宅については、全て診断し、耐震性が確保されていることを確認してある。
- 市立病院の医療の提供について、公開セミナーが開催されていることを知らなかった。病気になる前に病気にかからない方法を医師から教えてもらうのは大変効果的である。今後どのようにPRしていくのか。
- 市内公共施設をはじめ、スーパーなどにポスター・チラシを設置してきた。今後はご意見を踏まえ、更に多くの方々に知っていただけるようお知らせをしていきたい。

第2編 海・港と歴史を活かすまち

- 観光客の人数は、元朝詣りも入っているのか。
- 入っている。事業の参加者だけで約120万人あり、神社の初詣（推計値）を含めると報告している人数になる。
- 浦戸地区の交流事業と関連して、今後の浦戸の定住促進についての考えは（災害公営住宅以外で）
- 浦戸地区は文化財保護地域となっているため、+αの人達を浦戸に住んで頂くためには、定住促進策を取りづらい法的な環境がある。土地の自由な使い方を模索しなければならない。離島振興法の改正で「離島特区の検討」が盛り込まれた。そういったものを活用して外から島に来て住んで頂けるような規制の緩和などを進めていきたい。
- 魚市場について、141億の水揚げで当初の目標100億からかなり大きな開きがある。設定の段階が低かったのか、想定以上の水揚げがあったのか。
- 100億の理由は、昨年104億、一昨年80~90億位の水揚げであり、現在も100億をベースとした市場の建設を目指している。141億は関係者による漁船誘致等の努力の結果であり、ツボダイなど今まで入ってこなかった魚種が多くとれたことなどによるもの。今年も同様に入ってくる見込みは立てられないことから100億をベースにしていきたい。
- 浦戸の歩け歩けがいつの間にかなくなったが、今後やる予定はあるか。マラソンやジョギング人口などが増えているので、また復活してはどうか。
- 体育協会が主催したウォークラリーのことかと思う。体育協会では現在も様々な事業をしているので、今後頂いたご意見を伝えたい。
- マグロの水揚げの状況と今後の取り組みは
- 気候・海水温度によって三陸沖に行く、南下する・しないなど大きく変わる。秋の「三陸塩竈ひがしもの」の時期には高値で売れるため多少多く塩竈に入ってくるが、気候の影響の方が大きいため、なかなか読めない状況である。

第3編 夢と誇りを創るまち

- 一流アスリート誘致先導事業の結果として、具体的にどのような結果が出ているか、事例など教えていただきたい
- 市内の学校に伺ったところ、一流アスリートのお話を聞いたり、一緒に運動したことによって、体育が好きになったとの声も聞いている。今後もスポーツ人口の拡大に努めていきたい。
- 教育関係の予算少ないようだが十分なのか
- 年間15億弱の予算となっている。限られた予算を有効に使うために日々工夫して実施している。全て市が実施主体というのは限りがあるので、市民の皆さんが主体的に企画・運営していただければよりよいまちづくりが実現していくのではないかと感じました。

講 評

全件報告後、審議委員の副会長の東北学院大学の斎藤教授、宮城大学の宮原教授、会長の東北大学の滝田教授から講評をいただいた。

【斎藤教授の講評】

- 震災以降、非常に困難な時期に懸命に取り組んでいる状況がうかがえた。
- 長総を作った時には考えられなかった色々な条件が出てきている。それをどう踏まえていくのか。
- 3年目に入って状況の中で歴史や文化をどうまちづくりに生かすのか。
- 2,000件の家が解体されている。やむを得ないことではあるが歴史的な遺産の喪失ということでもあった。新しいものに置き換えればいいのかというのではなく、必要なものには保存をかけたりすることも重要ではないか
- 宮町・本町地区は被害を受けたとはいえ、歴史的な町並みの中核は残った。皆さんの努力に感謝したい。一方で北浜など海沿いの地区では景観そのものが大きく変わっている。資料や記録とかで残していくことも考えなければならないと感じた。

【宮原教授の講評】

- 震災の大変な時期から昨年も報告会を開かれて、以降毎年開催されていることに本当にかなりハードではないかと思うが、一つ一つの事業に対して結果を出していることは素晴らしいこと。
- 今回の事業のラインナップは生活・産業について重点的に報告してもらった。第3編の分野については今回3件だけだったが、来年はぜひ3編の事業も伺ってきたい。
- 震災後の対応により個々の事業が遅れてしまうこと・影響が出ていることもかなり明らかになった。
- 観光について塩竈神社が柱になっているようだ。悪いことではないが、もっと多様なかたちでまちの中の観光資源を開拓する、特に水産業や食品加工と積極的に結び付けてまちのものを売っていくことが重要ではないか。

- 浦戸の交流人口を増やしていくことが重要。市の汽船に関して、積極的に観光的にリニューアルしていただいて、船の写真を撮りくる・乗りたいと思うくらいの工夫をしていき交流や物販に繋げていく。
- 学力向上について、教員以外の方々を活用して効果が上がりつつあるのは、子どもさん達にとって非常に良い。
- 定住においてアドバンテージになる部分がある。待機児童ゼロなどを強化することで他のまちからの移住者を促進するかもしれない。市立病院の在宅医療の積極的な取り組みも、病院に行けない人、在宅を望む人たちに非常にアピールできるところだと思う。
- 今回の震災の中で変わったもの、逆にいろいろな形で活用できるものも見えてくる。社会の変化などを踏まえながら微調整しつつ計画を進めていくことが大事ではないか。

【大滝教授の講評】

1. 産業について

- 長総では基幹産業を大きく水産関連・食・観光とし、その相互連携で支えていく構想であり、今でもそうであると思っている。震災によってスピードが鈍ることがあったかと思うが、総合計画のスタンスを崩してはいけないと思う。
- 魚市場の水揚げの141億円は動く数値であるので、良い数値ではあるが、これに一喜一憂すべきではない。
- 震災前からチャレンジしてきたものを震災後もやり続けていく（塩竈ブランドの開発、観光との連携、新たなマーケットの開拓、高付加価値化など）ことが大事。
- われわれがやるべきことははっきりしている。それらがちゃんと成し遂げられているかを10年にわたって一步一步確認しながら進めていくことをやってほしい。

2. 震災がもたらした影響・効果

- 震災がもたらした良い効果。震災前には入ってこなかった企業・産業・業種がたくさんまちに入ってきている。震災という大変大きな犠牲を払ったうえでの話であるが、これは非常に大きなチャンスである。既存の水産業の路線に乗ってそれをそのまま延長してやっていくのではなく、塩竈の企業の皆さんが頑張っていたのは当然として、ぜひ外部から入ってきた人たちと力を合わせて新しい組み合わせを作っていくことがたいせつである。新しい動きを塩竈の水産業や観光業のあり方そのものを、これまでと違った姿勢で取り組むきっかけにしてほしいと思う。
- これは他のまちでも起こっていることである。石巻や気仙沼などの場合、被害が大きかった分、時間はかかるがもっと抜本的に変化させようとしている。今後復旧・復興が進むとそれらとの競争も起こってくる。141億の水揚げは順調に見えるがそれに甘んじないで、努力を続けてほしい。新しく入ってきた人たちと交流することで塩竈の新しい可能性が開けてくると思う。
- 震災が3年目になると産業のかたち、雇用のかたちが変わったか正面から問われることになる。それに対してどのように変わったか、来年ぜひお聞かせいただきたい。